

日本在宅 医学会 雑誌

Vol.5 No.2

The Japanese Academy of Home Care Physicians

●第6回日本在宅医学会大会のお知らせ

生と死を守る家庭医の役割

佐藤 智

●巻頭言

基礎—疥癬虫（ヒゼンダニ）の寄生虫学：基礎と最近の進歩
臨床—在宅医療における疥癬（臨床の立場から）高宮信三郎
大滝 優子
樹神 元博
関 なおみ

トピックス イベルメクチンによるヒト疥癬の治療

社会医学—疥癬の流行が示唆するもの（社会医学の立場から）

●特集Ⅰ「医学教育、卒後教育」

1. 臨床研修における在宅医療の位置付け

新医師臨床研修制度と在宅医療

在宅医療と卒後臨床研修

中島 正治
矢崎 義雄

2. 医学教育における在宅医療の位置付け

医学教育の改革と在宅医療

医学教育における在宅医療の位置付け

小松 弥生
梶井 英治・高久 史磨

3. プライマリケア教育と在宅医療

プライマリケア教育と在宅医療

前沢 政次

4. 日本在宅医学会から

医の基本は医療である—新しい研修医制度の発足を控えて—

学部教育・在宅医療実習「順天堂方式」

5. 特集「医学教育、卒後教育」を企画して

「卒後臨床研修についてのアンケート」集計結果

佐藤 智
田城 孝雄

田城 孝雄

平原佐斗司、他

森 清

●報告

「卒後臨床研修についてのアンケート」集計結果

●在宅医療のためのトピックス 在宅骨髄移植（骨髄幹細胞移植）

日本在宅医学会認定専門医制度規程.....55

投稿規定.....59

投稿承諾書.....

編集後記.....

60

63

日本在宅医学会

●巻頭言

生と死を守る家庭医の役割



佐藤 智 日本在宅医学会会長

今日ほど日本の世相が混乱しているときはないように思われる。日本の近代の歴史をみると、第二次世界大戦の後、国を挙げて復興に努め、現在では世界最高の長寿国になり、世界に誇る健康保険制度を全国一律に施行することが出来た。

しかし、その国民の長寿化も健康保険制度も、現在では多くの問題を私共に投げかけている。その原因は多岐にわたるが、国民の健康を地域社会の中で担っている「家庭医」が減少したことが、大きな要因である。

医師の大きな役割は「病気を治すこと」であるが、「安心して死を迎えるように配慮すること」は「病気を治すこと」と共にもう一つの大きな役割である。特に、家庭医はその任務が大きい。しかし、日本の現状は「病気になったら病院にゆき、そこで最後を迎える」という考えが未だに主流である。このような考えが大勢を占めている国は日本のみであるが、現在の日本人はこのことを意外に知らない。そのことは大変に不幸な事実である。

その最大の原因是、信頼のおける「家庭医」が身近にいないことである。もし、病気になったときに「家庭医」がまず診療し、必要がある場合に病院を紹介する。入院した時には家庭医が病院医師と連携をとり、退院後は自宅で続けて治療する体制があれば、今日でもほとんどの場合在宅医療が可能である。

このことは今更声を大にして説くほどのことではなく、在宅医学会に関わっておられる医師には当然のことであるが、残念ながら日本ではまだまだ普遍化していない。

今後われわれは、いかにすべきか、ここに一つの小さい活動を紹介する。

1年程前から、有志10名余が毎月集まり熱心な討論が始められた。その目的は、家庭医が日本で成長しやすい環境を作り、その役割を明確にし、具体的な実践をしたい、という考え方である。そのメンバーは現場で在宅医療を懸命に実践している医師、そのほか学者、役所の人などである。私共医師は現場で日常的に在宅医療に関わっていると「現行の法律、規則、支払い制度など」は現状に即せず、実情に合わないことを感ずる。

日本の行政がこの20年間に「病院中心医療」の中で組み上げられた診療報酬制度では、在宅医療が十分に報いられないのは当然であり、それだけに「必要なことを、行政に、社会に発言してゆく」ことが私共に求められている。

この会では、当然ながら診療報酬などの事だけでなく、「生と死を見守る家庭医」の役割、在り方などが論ぜられている。そして、日本の医療を、患者、家族と共に取り組むような仕組みにしてゆくための「家庭医の在り方」が求められている。

この50年の日本の医療が「医者と行政の都合で決められてきた」面が多かったことを改め、「患者、家族、医療者」の「共有の場」の中で決められる方向に進むように、その道筋を見いだしてゆきたい。

この学会の使命の一つが、ここにある。